



旅とカメラ

清川泰次が写した昭和日本紀行

2008年12月6日(土) ↓ 2009年3月22日(日)

世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー



- 箱根と云へば 芦の湖等も すぐ思ひ出すであらうが 此のアルバムは 電車終 奥の強羅迄でしかない。
- 箱根は歩いて湯本迄

◎開館時間 10:00~18:00 (入館は17:30まで) ◎休館日 毎週月曜日(ただし休日と重なった場合は翌日)、年末年始(12月29日、1月3日) ◎観覧料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、中学生100円(80円)、65歳以上及び障害者の方100円(80円) ※(一)内は20名以上の団体料金。小・中学生は土・日・祝日無料 ※障害者で小・中・高・大学生、および障害者の介護者(当該障害者一人につき一人に限る)は無料。 ◎交通 小田急線「成城学園前」駅 南口徒歩3分



箱根

小田原 板橋 風祭 入生田 湯本 塔の沢 大平台 宮の下 小涌谷

清光園 洞内 旭橋 釜淵所 七田 明皇寺 底念八

旅とカメラ

清川泰次が写した昭和と日本紀行

旅は時に、ひとびとにかけがえのない出会いや時間を与え、次は何処へ、とあくことなく足を運ばせる魅力を中心に満たしてくれます。

昭和に入ると鉄道の整備が進み、大衆の旅行ブームが全国へと広がっていきました。芸術家たちの多くも日本各地に旅に出ては、土地の風趣や旅情を味わい、詩や日記を綴り、スケッチブックを広げて、旅先で得た感興をそれぞれに表現してきました。

清川泰次（一九一九―二〇〇〇）もまた、旅にみせられた作家のひとりです。生涯にわたり、国内外問わず、様々な場所へと旅しています。清川は昭和十一年（一九三六年）に慶應義塾大学予科に入学後、学業のあい間をみても、愛用のライカを携え、友人とともに日本各地を度々訪れています。東京の下宿先から近距離の鎌倉、江ノ島、箱根への小旅行や、浅草より汽車に乗り込み日光・東照宮へ参詣。さらには汽船に乗って大島の溶岩見物と、気の向くまま各地へ赴きました。

清川は、こうして旅に出ると、その先々で出会った光景をひとコマずつフィルムにおさめています。それらは、景勝地への好奇の視線だけではなく、駅のざわめきや、他の旅人が景色に興じる姿など、清川が旅で触れ、感じた空気そのものが伝わってくる写真です。

本展では、昭和十年代に清川泰次が旅に出て、日常とは異なる風景との新鮮な出会いを活写した数々の写真作品をご紹介します。



奈良にて 昭和16年



江ノ島にて 昭和13年



静岡・三嶽 昭和15年3月



日光までの車内にて 昭和14年6月



撮影地・年代不詳



江ノ島にて 昭和13年

世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー

2008年12月6日（土）→2009年3月22日（日）

本館情報 世田谷美術館 〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL:03(3415)6011(代)

企画展 『山口薫展 都市と田園のはざままで』 2008年11月3日(月祝)→12月23日(火祝)

『十二の旅:感性と経験のイギリス美術』 2009年1月10日(土)→3月1日(日)

特別展『平泉～みちのくの浄土～』 2009年3月14日(土)→4月19日(日)

収藏品展 『難波田史男展』 2008年12月12日(金)→2009年2月27日(金)

分館情報 会期 2008年12月6日(土)～2009年3月22日(日)

向井潤吉アトリエ館 〒154-0016 世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03(5450)9581 www.mukaijunktchir-annex.jp

『向井潤吉 生きている民家——描かれた生活の息吹——』

宮本三郎記念美術館 〒158-0083 世田谷区奥沢5-38-13 TEL 03(5483)3836 www.miyamotosaburo-annex.jp

『画家の書棚にみる 昭和アート・ブック史——宮本三郎文庫より——』



世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066 世田谷区成城2-22-17 TEL 03(3416)1202

[交通]=小田急線「成城学園前」駅 南口徒歩3分